

憲法9条は宝



「戦争する国」づくりストップ！

元高槻市立小学校長の曾和照之さん（元管理職経験者への「9条守れーアピール」呼びかけ人の一人）から、自らの戦争・軍隊経験と平和の大切さを訴える記事を寄せていただきました。



9条守れ！アピール運動記者発表（4月28日府教育記者クラブ）

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

元陸軍二等兵の心



高槻退職教職員 曾和 照之さん（90歳）

敗戦の数日後、班長から食糧配給の指令が出て生米が配られた。受けとった者は自由に帰郷してもよいということ。帰郷の支度にとりかかった。愛媛県の西端「うのまち」から列車と宇高連絡船で、やっと岡山についた。すでに大阪方面の列車がなく、仕方なく駅構内で野宿と思い、うろついていたら、補助憲兵につまり大変なリンチを受けた。
理由は、尊い日の丸を風呂敷代わりにしていること。補助憲兵は「再び日の丸を掲げるときが来るのだ。それまでは、大切にしまっておけ！」と言いつつ、いま、再び彼の言ったような状況が迫っているように思える。憲法9条をもっともっとゆるぎないものにしていく活動が、今後にかかっていることを痛感している。

日本国憲法9条
ノーベル平和賞候補に！
（2014年・2015年）

9条守れの声を
ごいっしょにひろげましょう

戦争の事実を知り、平和への確かな力に



「戦地からの手紙」を出版された紅谷章子さん

その背景には、昨年7月の安倍内閣による「集団的自衛権の閣議決定」という事態があり、せかされながら、

父は何も言わずに亡くなったので、見つけた時の、衝撃は言葉で言い尽くせません。手紙の内容も衝撃的です。内陸の猛暑、凍りつく深夜を行軍する様子、戦闘のすさまじさ、竹馬の友の戦死、中国や朝鮮の人々、内地の家族への

その背景には、昨年7月の安倍内閣による「集団的自衛権の閣議決定」という事態があり、せかされながら、

父は「手紙」をきちんとして整理していただいたのに、なぜ戦争について一言も言わなかったのか。戦後、自分が青春を捧げた戦争の意味に戸惑い、想像を絶する体験を語るに忍びなかったのかも。さまざま思考の末、父は語らなかったというよりも語れなかったのだ、それならば父に代わって次の世代である私たちが語らねばならない、本にして残そうと結論づけました。

一昨春秋、父の日中戦争従軍中の「手紙」を見つけた。独身の父が、家族に送った120通、1937年7月の盧溝橋事件の直後、召集を受け、負傷して解除になるまでの1年6か月に及ぶ記録です。

父は「手紙」をきちんとして整理していただいたのに、なぜ戦争について一言も言わなかったのか。戦後、自分が青春を捧げた戦争の意味に戸惑い、想像を絶する体験を語るに忍びなかったのかも。さまざま思考の末、父は語れなかったというよりも語れなかったのだ、それならば父に代わって次の世代である私たちが語らねばならない、本にして残そうと結論づけました。

父の「戦地からの手紙」を編集して思ったこと
大阪私学退職教職員 紅谷 章子さん
元大阪私立高校長の紅谷章子さんは、元管理職経験者への「9条守れーアピール運動」呼びかけ人の一人です。アピール運動記者発表の場で、自ら出版された著書にかかわり平和への思いを語られその内容が、毎日新聞に掲載されました。本の出版・編集にかかわった思いを寄せていただきました。

編集しての思いは、①戦争へと国民の精神を総動員していく軍国政治、それを煽り立てるマスコミと教育の果たす役割。②当時の日本の軍隊の特徴である食糧の現地調達（略奪と飢えを伴う）家族からの膨大な量の小包でまかなわれていたこと。③父は兵站をまかなう輜重兵として武器を十分に持たせてもらえず、多くの戦死者を出したことが、相手にとっては、後続部隊であろうと敵であることには違いない。④苦難の道を歩んだ中国や朝鮮の人々のこと。安倍政権は戦争法案を、今非常に乱暴なやり方で国会に提出し、日本を再び戦争する国に、アメリカのやる戦争に積極的に協力しようと、私たちの「教え子」をふたたび戦争に送らない」という決意を踏みにじろうとしています。

父からの手紙が「証言者」